

理事長 森 勉

NHKの異色人気番組「チコちゃんに叱られる！」を毎週楽しく拝見しています。昨年の秋、「松茸が高値になったのはなぜか？」その理由は「プロパングスが普及しそれまで燃料等にしてきた落ち葉を使わなくなった」でした。私の答えは、「松枯れにより赤松がほとんど無くなったから」で「ポーっと生きてんじゃねーよ」とチコちゃんに叱られました。故郷の岡山で、子供のころ松茸を採っていた私の生活実感と余りにも異なるので調べてみました。

わが国の松茸の生産量は昭和16年の1万2000トン进行ピークに減少し続け、昭和41年に1291トンとなり近年では100トン前後を推移するまでに激減し、味・風味などで多少劣る外国産の松茸が流通量の95%となつています。一方松枯れの被害は明治38年長崎市周辺で発生し、九州・山陽地方に広がりました。戦後、伐採等の対策により一時鎮静化しましたが昭和45年頃から被害は再び増加に転じ昭和54年頃にピークに達し、山林・寺社・公園等の松は無残にも枯れ果ててしまい日本の原風景が変わってしまいました。松

茸の減産の原因は里山の放棄、松枯れ、地球温暖化等の諸説有りだそうです。

わが国の神道は、縄文の古来より森羅万象に霊が宿るというアニミズム的な信仰に始まり、飛鳥・奈良時代に天照大御神を最高神・皇祖神とする国家神道に発展しました。仏教の伝来に伴い本地垂迹説等により神仏習合が千年の長きにわたり続きました。明治政府は神仏分離により国家神道へ回帰しましたが、戦後GHQにより軍国主義の背景とみなされ解体されました。しかしながら、大和の神奈備三輪山、伊勢二見浦の夫婦岩、各地の鎮守の森の樹齢数百年の枝の垂れ下がった美しい松のご神木等に祈りを捧げるといふ原始的な風習は現在も人々の生活の中に途絶えることなく生き続けています。

鶴は千年亀は万年といいますが私達が実際に目にする生き物で人間より長く生きるのは屋久島の縄文杉のような巨大な樹木です。人々が何時でも身近で手を合わせ祈ってきた、豊穰と平安をもたらすという松のご神木が古木であるが故に松枯れにより無くなつてしまったことにより、自らを自然の一部とし自然と共生し畏怖し感謝してきた日本人の魂の源流も枯れ果てるかもしれません。せめて、朝裏山で採りたての松茸を七輪で焼き細く割いて酢醤油で頂く里山の秋のささやかな食文化ぐらい残って欲しいものです。